ＧＫ情報レポート

【2022 年発行】

vol. 66

新年号

発行者
権田金属工業株式会社　営業部
〒252-0212
神奈川県相模原市中央区宮下 1-1-16
電　話　042-700-0221
ＦＡＸ　042-700-0660
E-mail: eigyo@gondametal.co.jp
https://gondametal.jp

Contents

1. 年始ご挨拶

2. 営業部　年始のご挨拶

3. 1 号ドローベンチ更新

4. 職場紹介　製造部製造課鍛造係

5.相場情報

皆様でご回覧下さい。										
回覧印										

※バックナンバー（Vol.1～65）を用意しております。ご希望の方は当社営業部までお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. 新年ご挨拶

明けましておめでとうございます
旧年中は格別のお引立てを賜りありがとうございました。心より御礼申し上げます。

さて、私は今年が６回目の年男です。今年の干支は壬寅（みずのえとら）です。壬は、機織りの糸を巻き上げる軸を象徴しており、内部に生まれた力が増える様子を表しています。寅は、矢を両手で引っ張る姿をかたどっており、引っ張るや伸ばす、協力するという意味を持ちます。両者ともに縁起のいい字で、厳しい冬を越えて、芽吹き始め、新しい成長の礎となるイメージです。

ただしそうは言っても、今年も国内の景気にはいろいろな懸念材料があります。
新型コロナはオミクロン株の出現により世界的に患者数が急増しています。日本でも蔓延防止措置が一部の県で適用されましたが、言われているように重症化する比率がかなり少ないのであれば、集団免疫の獲得につながり、終息に向かう可能性が高くなります。当面日本経済にも悪影響があるでしょうが、遠からず元に戻ると思います。
世界情勢は、米中、米ロの対立、イラン問題など、こじれると大きな問題となるものがあります。
また中国の景気の先行きも懸念材料です。中国のＧＤＰは今や世界の約 17%を占める 1670 兆円（日本の３倍）であり、大幅に減速すると世界経済へのかく乱要因になります。
一方国内はどうかというと、今回の一連のコロナ騒動によって、国内の産業の空洞化が予想以上に進んでいることがはっきりしてきました。これは国内での投資不足が背景にありますが、投資を企業に任せるだけでなく、政府による規制緩和や大胆な国内での投資誘導策が求められます。

いろいろな懸念材料を並べましたが、そうは言っても世界的な問題が大したことが無ければ、日本経済は上向きＧＤＰもコロナ前に戻ると思います。また脱炭素化の動きや、デジタル化のさらなる推進など、新たな動きもいろいろ出てきています。
私共権田金属工業はそのような中で、産業の基礎資材である銅、黄銅製品の供給を通じて、皆様のお役に立ちたいと願っております。
今年も頑張ってまいります。皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

権田源太郎

2. 営業部　年始のご挨拶

明けましておめでとうございます。
旧年中は、格別のご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、一昨年から続くコロナ禍は2021年にも尾を引き、通常とは違う環境で過ごされた方も多かったことと思います。
当社もまた大きな影響を受けましたが、このように事業を続けることが出来ておりますのは、ひとえに皆様のご支援あってのことと深く感謝申し上げます。

2022年では、新規に設備した引抜機を用い、ネーバル黄銅丸棒、高力黄銅丸棒の新サイズを販売する予定です。
納期短縮にも取り組み、少しでもお取引先様方のお役に少しでも立てるよう、営業部一丸となって努力して参ります。

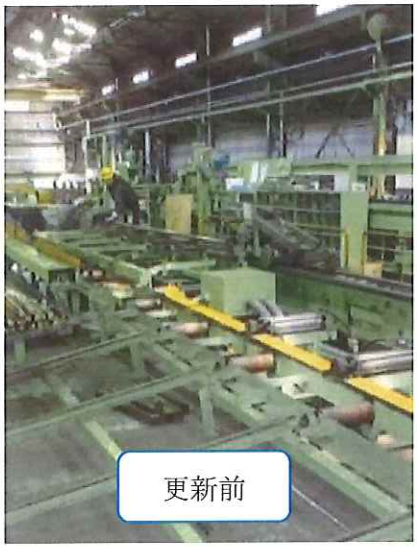
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

記者　権田 有紀子

〔前列左より　中山　権田　宮本　秋野　、後列左より　高橋　小方　田中　日吉〕

3.1号ドローベンチ更新

当社では110φまでの銅丸棒・黄銅丸棒は熱間圧延後に引抜機で引き抜いて仕上げ加工しています。この引抜機をドローベンチ（Draw Bench）と呼んでいます。
ドローベンチは、ダイス（テーパー状の金型）に通して、直線的に引き抜くことで、丸棒断面を細くする製造設備です。



当社では熱間圧延後に、ドローベンチで引き抜き作業をしているので、組織が緻密な製品を作りだしています。
またドローベンチを使って、ダイスで引き抜く事で、押出製法と比べて、真円度・真直度が非常に高い丸棒製品を製造する事が可能です。
一昨年から続く新型コロナウイルス感染拡大の影響により売上が大幅に下がった事もあり、当社では事業再構築計画の一環として、ドローベンチの新規購入に踏み切りました。

昨年8月の夏休みから9月下旬にかけて、新規に購入したドローベンチとそれまで使用していた設備を入れ替える工事を行ないました。

新型ドローベンチは、旧型と比べ約4倍のパワーアップとなり、今迄製造する事が出来なかったC4641,C4622ネーバル黄銅、C6782高力黄銅の50φ～110φの引抜材製造が可能となりました。
又旧型設備ではパワー不足で無酸素銅丸棒の100φ～110φはH材の製造が出来ませんでしたが、新型ドローベンチを導入した事で従来の1/2H材に加え、H材の製造も出来る様になりました。

これらの新製品に対しては、何件かのお引き合いも頂戴しており、2月中旬頃から出荷がスタートする予定です。

ドローベンチは従来製品の製造に加え、新品種、新サイズの製造も加わり、順調に稼働しています。

C4641,C4622ネーバル黄銅丸棒、C6782高力黄銅丸棒の50φ～110φもしくは無酸素銅丸棒のH材（C1020BD-H）100φ～110φのお引き合いがございましたら各営業担当まで是非お問い合わせ下さい。

記者　日吉　田中

4. 職場紹介　製造部製造課鍛造係

鍛造係では主に以下の①～④の製品を製造しています。

① 銅棒（φ110～）、黄銅棒（φ115～）の製造

② 大型及び小型の銅リング、黄銅リングの製造

③ 各種サイズの銅球製造

④ 銅、黄銅の型打ち鍛造品の製造

鍛造係の大きな特徴としましては、鍛造工場内で製造から検査まで行い工場内で工程が完結していると言うことがあげられます。

次に主な製品の製造方法ですが、①の銅棒、黄銅棒は油圧式の 1,000t プレスでビレットを自由鍛造により少しずつ押し延ばしていきます。この作業はマニプレータを使用し、1,000t プレスのオペレーターと息を合わせて作業しています。叩き終えた丸棒は次工程の切削加工により各製品寸法に仕上げられます。

②の各リングの作製方法は 1,000t プレスでドーナツ状に加工した材料をリングローリングミルという設備で段々と延ばしていきます。こちらも最終的に機械加工で各製品寸法に仕上げます。

③及び④の銅球、型打鍛造品は各種プレス設備を使用して製造しています。

簡単に説明しましたが、上記の 1,000t プレス以外の設備は 1 台の設備に対して 1 人で作業しています。（もしくは複数台を 1 人で作業）そのため、作業員の個人の力量が多く求められます。

効率良く①～④の製品を製造していますので、クレーンのような共有で使用する設備などは皆、阿吽の呼吸で効率よく作業しています。また、お客様の手元にお届けする最終的な工程もありますので、弊社の製品を使って頂けるお客様のことを第一に考え、安全第一で作業を行っております。

記者　鍛造係　片桐

4.相場情報

1. 電気銅建値推移

2021年 10月・・・1,040円スタート（10月平均1,153.1円）
2021年 11月・・・1,170円スタート（11月平均1,165.2円）
2021年 12月・・・1,130円スタート（12月平均1,128.3円）
2022年　1月・・・1,180円スタート

2. LME在庫状況及び需給状況

LME指定在庫状況は、2021年10月は22万トンでスタートしたが、そこからまた減少していき、11月中旬以降は10万トン台を下回った。その後年末に向けて更に減少していき、12月末には約9万トンにまで下がった。
2021 年はコロナワクチンの普及が高まり、積極的な動きが見えた。各業界で急激に需要が復調し、特に自動車業界と半導体関連の動きが顕著であったが、同時に材料の供給不安が発生した。また、6月に発生したルネサス那珂工場での火災事故により、急激な半導体不足に陥った。そのような背景もあり、LME銅相場も10月は9千ドル前半でスタートしたが、10月中旬から1万ドルに達し、その後も9千ドル台後半を推移していった。

ICSG（国際銅研究会）は10月にオンライン会合を開催し、2021年～2022年の世界の銅地金需給予測を発表した。需給バランスとしては、2021年が4万2千トンの供給不足、2022年が32万8千トンの供給過剰になると予測した。前回予測(4月発表)では、2021年は7万9千トンの供給過剰と予測していたが、一部製錬所の操業不調から供給量が前回予測より下回る見込みとなった。

需要に関しては、世界的な脱炭素化による電気自動車や半導体関連、更に再生可能エネルギー関連が需要を伸ばしており、潜在的な銅需要は堅調を推移すると見込んでいる。建設関連用途の資材は高騰する銅価の影響による買い控え等が懸念されており、世界全体では緩やかな上昇が予想されている。

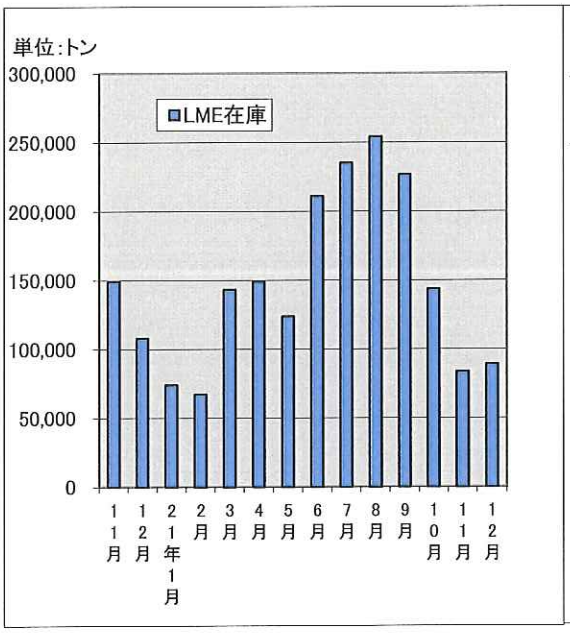
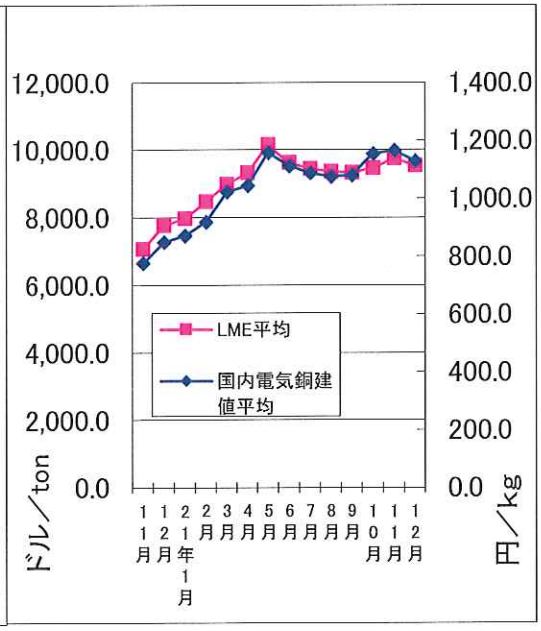
3. 為替の見通し

2021年のアメリカ経済は、国内の積極的な個人消費と設備投資が旺盛であり、2022年も牽引するのでないかと予想されている。しかしながら、新たな変異株が猛威を振るい始めると、経済が下振れするリスクがある。

一方、中国経済も需要縮小、供給制約、成長期待低下の三重苦と評されていた。しかし2022年下半期には、5年に一度の党大会が開催予定、更に翌年2023年3月には国家機構の人事があり、国内では昇進の大チャンスが訪れるとされており、政治的成績を引き上げる為、各党幹部はパフォーマンスを良くしようと息巻いている様子だ。また例年冬場は、大気汚染物質（PM2.5など）の排出削減があるが、2月に北京冬季五輪を控えており、2022年は例年以上に厳しくなる予想がされている。これにより、鉄鋼業の生産抑制が3月末まで続くと予想されており、この期間は銅需要も大きく影響を受ける可能性が高い。

4. 今後の見通し

中国国内での不動産業界の先行き不透明感や感染拡大の悪化などまだまだネガティブ要因は多く、銅相場も影響を大きく受けるのではないかと予想されている。世界の銅消費主要国である中国の経済回復が一刻も早く望まれている。足元はまだまだ不安定な状況下ではあるが、新エネルギー等の明るい要因も見えており、今後は緩やかな上昇傾向になると思われる。

短期予測(1M)　LME　　＄9,300～10,100/ｔ　　為替　113～118円/＄
　　銅建値　1,120～1,200円/kg
長期予測(3M)　LME　　＄9,100～11,000/ｔ　　為替　110～130円/＄
　　銅建値　1,100～1,220円/kg

記者　小方